

第 5 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成28年1月29日

閉 会 中

場所 第 1 委 員 会 室

第5回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成28年1月29日（金曜日）

午後1時0分開議

午後2時15分閉会

本日の会議に付した事件

(1) ラグビーワールドカップ2019大会成功に向けた課題について

(熊本県ラグビーフットボール協会との意見交換)

(2) その他

出席委員(14人)

委員長 溝口幸治

副委員長 田代国広

委員 氷室雄一郎

委員 藤川隆夫

委員 荒木章博

委員 重村栄

委員 西聖一

委員 高野洋介

委員 濱田大造

委員 橋口海平

委員 河津修司

委員 松村秀逸

委員 中村亮彦

委員 松野明美

欠席委員(1人) 委員 早田順一

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

商工観光労働部

部長 高口義幸

観光経済交流局長 小原雅晶

観光課長 満原裕治

国際課長 磯田淳

教育委員会

体育保健課長 平田浩一

総務部

人事課長 青木政俊

土木部

道路都市局長 手島健司

都市計画課審議員 緒方誠

警察本部

警務課長 林修一

交通規制課長 木庭俊昭

総合企画室長 井野新輝

参考人

熊本県ラグビーフットボール協会

会長 笠日出臣

副会長 岡村隆

理事長 永野昭敏

書記長 野口光太郎

事務局職員出席者

政務調査課主幹 松野勇

政務調査課主幹 法川伸二

午後1時0分開議

○溝口幸治委員長 開会に先立ちまして、御報告いたします。

本日、早田委員が欠席であります。

それでは、ただいまから第5回国際スポーツ大会推進特別委員会を開催いたします。

初めに、私のほうから御挨拶を申し上げます。委員長の溝口幸治です。

きょうは、お忙しい中に、ラグビーフットボール協会の皆様方には、本委員会に出席をいただきましてまことにありがとうございます。

私どものこの委員会では、ラグビーワールドカップ、それから女子ハンドボール世界選

手権大会、そしてオリンピック競技大会等の審議をさせていただいております。

先般行われましたラグビーワールドカップ大会にも、私や橋口委員、それから楠本議員が県議会を代表して参加をさせていただいたところであります。実際、見させていただいて、さまざまな課題があるというふうに感じたところであります。

きょうは初めての試みでございますが、皆様方から御意見、御要望、御提案等をいただきながら、我々の審議に生かしていきたいというふうに思っています。時間があるようでも時間がないというのが私の今の実感でありまして、皆様方も恐らく一緒だというふうに思いますので、前向きな意見交換になりますよう、委員の皆様方にも御協力をよろしくお願いをいたします。

それでは、早速、ラグビーフットボール協会の笠会長より御挨拶をいただきたいと思っております。

○笠参考人 皆さんこんにちは。

きょうは、ラグビーワールドカップに関しまして意見交換会を実施していただきましてまことにありがとうございます。光栄でございます。ラグビーがこういう場になること自体が今までなかったです。それほど急速な盛り上がりが行われているというところでございます。

ラグビー協会は日本ラグビー協会の傘下の熊本県ということで、特段熊本だけが突出して何かをするという組織ではありませんが、熊本も、その中の組織的にはその性格であります。しかし、ラグビーワールドカップの熊本開催をめぐっては、これは別であります。県、市、行政の皆さんと一体化してさまざまな取り組みをしたことで高い評価を受けております。後ほどその具体例などをいろいろと御説明したいと思っておりますが、きょうは、全体として、私、笠ですが、理事が32名おりました、

その中でも幹部クラスの、私のほかに3人来てもらってます。座席表の隣でございます。それぞれの餅屋餅屋がありますので、遠慮なく勝手にしゃべる可能性もあります。そこはどうかお許しいただきたいと思っております。

きょうは、さまざまな方との接点がありますので、私たちも期待して、また、楽しい思い出で出席させていただきました。よろしくお願いたします。

○溝口幸治委員長 ありがとうございます。

なお、本日の出席者につきましては、お手元の名簿をもって紹介にかえさせていただきますと思っております。

それでは、意見交換に入ります前に、笠会長から、ラグビーワールドカップ2019大会成功に向けた課題や意見、要望等について説明をお願いいたします。

なお、今、笠会長からもありましたとおり、本日は、岡村副会長、永野理事長、野口書記長に御出席をいただいておりますので、笠会長の後に、補足等ありましたら御自由に挙手をいただいて、御発言をいただきたいというふうに思います。

それでは、御説明をお願いいたします。

○笠参考人 まず、1つは組織面として、早期に、県、市、ラグビー協会3者による実働部隊の組織化をお願いしたいというのがあります。御承知のとおり、昨年3月に熊本開催が決定しましたが、それまでは招致委員会というのがありまして、県、市、我々協会、たまたま私が招致委員長になったんですが、そこで熊本開催が決定して自然消滅しました。つまり、もう招致決定したからですね。その後、具体的には、現場がもう少し意見交換が具体的に日常的にできるよういわず実働部隊の組織化ということでお願いしたいというのがあるわけです。県、市、ラグビー

協会3者による実働部隊の組織化ですね。つまりは、集まる場も必要だということです。日常にいろんな情報が入ってくる、とっさの動きも要る、そういうときにどっか行く場所がないんですね。どこに行ったらいいか、それぞれ、きょうは県の観光課に行くの、きょうは教育委員会に行くのとかそういう状態になります。ですから、1つの、まあ柔らかく言えばクラブのような場が欲しいです。自由な意見交換があって交流ができるようにというのが希望としてあります。そして、当然それらの意見交換を通して、これはもうスタートするわけですが、具体的にそれぞれの下部組織の役割が明確化されていくことを期待したいと思っております。

これが組織面ですが、2番目にハード面、これはハードですね。競技施設のことで、これは、組織委員会から規格の指示がもっと具体的にはっきり出てきます。今、例として言いますと、ピッチの周囲を幅5メートルのロングパイルの人工芝で覆い、安全性を高めるとか、そういうような例のいろんな細則がきちっとした形でやってきます。ゴールポストの高さを13メートルにすることとか、そういう意味合いのですね、それぞれがあります。シャワー室、ロッカー、トイレ、電光掲示板の増設、天然芝生、仮設スタンドのこと、通路の幅、こういったことが当然考えられますが、これは、基本的、もうすぐはっきりした形でもう一回言うてくるはずですよ。

それから、開催の運営のための設備、これはもう我々がトップリーグその他非常にいろんな経験をしておりまして、交通問題、駐車場関係その他あります。これは、主要なほかの会場は最寄りの駅というのが表示されたりしております。熊本はないんですね。ですから、一番適正な交通手段を選定して、そして渋滞なく皆さんが来て、そして周りをスポーツの、ラグビーのゲーム以外も含めたゾーンをつくって、滞留する時間的、場的余裕

をつくらなきゃなりません。そして、大混乱なくまた帰っていただくというような部分があります。いろんな考え方があると思います。そういう駐車場関係、道路の関係、公共交通機関の、今のところ鉄道敷くわけいきません、間に合いませんから。そういう意味合いでのバスや車、その他の有効的な方策を考えていただきたいというものがあります。小さい話からすれば、身障者用の園内移動のためのゴルフカートのようなものの整備も、ひょっとしたら話に出てくるかもしれません。

ちなみに、この前、トップリーグ、1万8,000人を超す人で埋まりました。大成功でした、協会としては。ただし、そういった設備とハード、それから人々の滞留その他のことを考えると破裂寸前でした。1万8,000を超す人で破裂寸前でした。それが事実としてあります。その他、会場には、小さい形としては総合案内所とかいろんな施設設備の注文があります。

それから、ソフト面では普及活動ですね。競技を普及させるために、小さい子供さん、小中高で、ラグビーやハンドボールを科目として採用してほしいというのがあります。少なくとも簡単なルールがわかるぐらいのことがないと、本当のラグビーのおもしろさはありません。これは国も文科省も多分言ってくるとは思いますが、ラグビーの基本的な種目のスタートとしてはタグラグビーというのがあります。タックルせずに、あれは何と言ったらいいんだろう、帯状のものを腰に提げて、タックルのかわりにそれをとって、だから危険なプレーにはならないわけですが、そういうタグラグビーというのがスタートの種目として、これは文科省も多分力を入れるということで具体的に指示が来ると思います。その講師など、そういう教育のレベルでは我々も十分に尽力できるかなというふうに思っておりますが、そういうソフト面で、普及面ですね。

それから、県民への周知では、私は、たまたまメディアの関係もありますが、今のところ順当に頻繁に周知のための活動をしてますが、さらにそれを計画的に具体的に新聞、ラジオ、テレビ、ほかの印刷物媒体などで、もう少し立体的に展開していきたいと思っています。

それから、観光面での課題などありますが、これは何でこんなことを言うかということ、ラグビーは海外からもたくさんの方が来るんですが、ただ、ゲームのための大会じゃないんですね、交流になっているんです、これは。これが普通のいろんな種目とちょっと違うのは、交流になっているものですから、そういう交流のいろんな一環としての観光でもあるわけです。この前、ロンドンでも九州の物産を出したり、それから、やりようによっては、九州・熊本の場合はいろんな協会がありますね、日英協会、日仏協会、アイルランド協会とか。そういうふうに、もし相手国が決まった後、若干の時間がありますので、決まるのが、あと1年半ぐらいしたら決まります、どこの国が来るかが。そういうときには交流を、ただラグビーゲームがあるよというんじゃなくて、総合的、立体的にしなければならぬと私は思っております。日英協会などには、会議に出てお願いに行きましたら、全面応援しますというお答えをいただいています。さまざまなボランティアもいるし、文化交流のあり方はたくさんあります、お国柄というものもありますが。そういう形での観光や文化交流というのが必要です。

それから、熊本の場所、福岡がですね、あれは何人収容かな、レベルファイブが2万ぐらい。ですから、当然、いわゆる大きな有名なチームの試合はなかなか難しいんです。ですから、福岡は、熊本がそういうやるときには、当然入り口として大きな機能を持ってますから、福岡も熊本のマーケットとして考えて向こうは協力してもらって、大きな試合に

は福岡からもたくさんのお客が来るような何か企画とかあり得ると思います。もう少し県を越えた活動ができるんじゃないかと、計画ができるんじゃないかと私は思っております。レベルファイブが2万ぐらいの収容しかありませんので、大きな国、あるいは日本の試合があるかどうかは非常に疑わしいです。しかし、福岡の人は熊本に非常に来やすいです、便利だから。そういうところで共同作戦とかいろんな企画も考えられるということでもあります。まあ、観光その他の経済効果は大きいんだと思いますが、いずれにしても、経済効果の推定は、国が決まってからじゃないとちょっとはっきりわかりません。相当なものがあると思います。

ラグビーというのは滞在型です。この前、イングランド大会で、日本が第2戦スコットランドで3日しか間がないので、一種のブレイクがありました、3日しかなかったから。普通5日から1週間は置くのが常識です、ああいう激しいスポーツですからね。ですから滞在型なんです、応援団のほうも。その辺が、プロ野球みたいに3日間3試合とかそんなのあり得ませんから、それは皆さんよくお含み置きいただきたいと思います。多くの海外のことを含めて、ファンが滞在型で来ます。また、広域で来る可能性もあります。福岡、熊本1週間とかそういう可能性が随分あります。それから、熊本市だけにまたいなかかもしれません。当然、阿蘇や周辺の観光地に行く可能性大であります。立体的に大規模におもてなしできるような考え方があります。

それで、私のところに、英語の通訳をするような、ボランティアをするような人が何本も電話かかってきます。何かお手伝いできる——これはまだ3年9カ月後の話なので、ありがとうございますとしか言いようがないんですが、そういった人たちを組織化して、機関紙でも出して、ラグビーをまず知ってもら

わなにかぬから、集まっていたいて啓蒙しなきゃいかぬですね。そういうシステムをどうやってしたらいいか、これはやっぱり行政の力をかりて、会場借りて、そういうふうな呼びかけのことに、協会だけじゃなくて、一緒に取材してお願いできないものかというふうになると思います。これが、突然大量のボランティアが要るとなったら大変な作業になりますし、また、ラグビーのこと御存じないような状態だと大変です。ですから、事前に、私は、組織化とラグビーの啓蒙の活動が必要じゃないかというふうに思っております。

まあ、たくさんのことを言いまして恐縮ですが、これは、県、市、協会が、実働部隊が一緒になって取り組みの課題を柱を幾つか挙げて、そして優先順位をつけて、それぞれが動けば、もう少し効率よく進むんじゃないかと思っております。

ちょっとざっとした言い方で恐縮ですが、よろしいでしょうか。

○溝口幸治委員長 あと、ありませんか、皆さん方から。

○野口参考人 野口と申します。よろしくお願ひします。

最初に出ました組織面につきましては、県と市とラグビー協会3者による実働部隊の組織化というのを挙げさせていただきました。誘致が昨年3月に決まりまして、約1年たっているんですが、誘致の前に、150項目にわたって申請書の中に質問項目がありました。それを載せて申請書として提出したわけなんですけど、その提出した内容について、その後1年間で、かなり私のところにも電話がかかってきます。例えば、グラウンドの広さについて、こういう申請書出ているんだけど、どうも実際は違うんじゃないかと、だから実際はかってきてくれと、そういうこと

がどんどん個人に向けて入ってくるんですよ。ですから、私だけではもうさばけないようなこともあるし、あと、そういうののほかに、ボランティアをやりたいんですけども、それまでに、2019年までどういうボランティアがありますか、どういうことをしとけばいいですかと、そういういろんな質問が上がってきますので、それも答える組織がないということです。いち早く3者で組織をしていただいて、実働部隊が動けるような組織をつくっていただきたいというのを補足します。

それと、組織面で2つ目に上がったのは、役割の明確化というのが出てきました。県の役割、市の役割、我々協会の役割というのは、2019年の中でかなり変わってくる、役割の分担が出てくると思います。例えばラグビー協会の場合は、実際は組織運営のほうにかかわってくると思います。交通とか警備とかそういうところは行政の仕事になってくると思うんですが、その辺の役割の明確化を早くしていただけたら、あと3年の中でいろんなシミュレーションを繰り返しながら仕事がやっているとしますので、早く役割分担化というのをお願いできればなと思っております。

組織面については以上です。

○永野参考人 先ほど会長のほうからもありましたが、ピッチの周辺を5メートルのロングパイルの人工芝で敷き詰めるとか、そういう安全性を高めないと国際試合は誘致できないと。ゴールポストもそうですし、そのあたりが整備できた上で、すぐ国際試合をできるというお墨つきをいただきましたので、これは組織委員会が提示しますので、それが決まったら、直ちに整備していただければと思っております。

○岡村参考人 第一番にやっていただきたい

というか、願望は、野口が申しあげましたように、早く実働できるような組織固めというのが第一番です。それから、先日のトップリーグを経験しまして、交通アクセス、交通問題ですね。それから駐車場問題、そこで非常に苦労しました。1万8,000というお客さんであれだけのことなのかと。ワールドカップになれば、その倍以上のお客さんが来る、どうなるんだろうというようなことで、ある程度もうシミュレーションをして、やれる対策は順次構えとかぬと、いざとなったら大変なことになるんじゃないかなというようなことを思っております。

それから、試合、どんなチームが来るかということですが、実は、カテゴリーのA、B、Cということで、試合のレベルといいますか、レベルというと失礼なんですけれども、強い、例えば、イングランドとニュージーランドとかいう世界で強豪の12番以内ぐらいが入っているチーム同士の試合をカテゴリーAと言うんですね、カテゴリー。それに、次に準じたのをB、さらに、言っちゃ悪いけど、ちょっとお客さん余り期待できないというような部分がCに。A、B、C、願望としては、カテゴリーAを協会としては欲しいです。ただ、カテゴリーAになりますと、組織委員会が定めているというか、一応の基準としては4万というのをうたっております。4万になると、うちのスタジアムが3万2,000ですので8,000足りないということで、8,000の仮設をつくらんとかぬとかいうような問題ができてきて、8,000の仮設をつくるならば、すごい予算的にも大変なリスクが伴うし、仮に来て、4万、超満員になるような状況になれば、それを元とれるのかとかいうその辺の洗い出しあたりもちょっとせんどいかぬとかぬというふうにも考えております。また、組織委員会が定めとる4万というもの、どうもいろんな部分でぶれるところがあります、組織委員会の考え方も。4万だけ

ど、下手すると3万6,000ぐらいでカテゴリーAが来るとじゃなかるかとか、何かその辺も頭の隅に少しあります。4万とうたっているけど、本当、4万でなかとカテゴリーAは来ぬというの本当なのかなというところもありますので、その辺の情報あたりも、自分たちは任意団体の身ですから、結構フットワークよく接触できますので、その辺の情報もとって、県、市の行政の方と当方が組んで、いい試合を極力持ってきて、県民の皆さんに喜んでいただきたいというふうに思っております。

一番自分が思っていることは、組織固めとそのいい試合を、カテゴリーAを目標に試合を誘致して持ってきたいというのが一番です。それと交通アクセスです。

以上です。

○笠参考人 一言だけ。実際に熊本が選ばれるのは、イングランド、スコットランド、それからアイルランド、直接委員たちが日本に来て調査活動をして、結果、おろしたんです。そしてAランクに近いものをもらいました。つまりは、三位一体による街の雰囲気、いろんなおもてなしの精神があふれていたというような部分を高く評価された。ですから、今ハード面の話がありましたが、そういうことまで含まれたら相当熊本は高い評価になります。ということです。ですから、単に、カテゴリーがAだ、大きいだけじゃなくて、少し寸足らずでも相当高い形で期待される部分がありますが、それは、ただ、今後の、あの人たちもメンバーチェンジするかもしれないので、これから幾つかの動きがまた入ってくると思います。

以上です。

○溝口幸治委員長 それでは、今の御意見に対する御質問やまた御意見等ありましたら、委員の皆様方から受けてみたいというふうに思い

ます。

どなたからでも結構ですが、何かありませんか。

○藤川隆夫委員 今のできるだけ早期に実働部隊が動ける、まあ、事務的なものをつくって動いていかなきゃいけないという話がありました。当然これは、県、市、協会一緒になってこれから、もう既に話も始まっているかと思うんですけども、最終的にどっかに設けたとしても、そこの財源構成の部分も含めて、協会だけでは恐らく難しい部分があるんだろうと思いますので、その部分は、協会としての財政的な体力とか何かというのは現状ではどうなのか、ちょっと教えてもらえればと思います。

○笠参考人 財政的には全く自信ありません。貧乏な集まりです。

○藤川委員 ということは、逆に言うと、行政と話してもらって、行政のほうから、県、市のほうから拠出してもらって、どこかまあ場所はやっぱり構えないと恐らく動きづらいと思いますので、場所を構えてもらって、その中で実際に動く人を雇用という形で雇い入れて、そして動いてもらうしかないんですね、やっぱり。

○笠参考人 どこか場をつくっていただいて、これは、県、市、協会、その他ラグビー関係者が自由に出入りできるような雰囲気の場をつくっていただいて、実は、その中でいろんな後援会組織などが固まれば、ラグビーは今まで長い間苦手だったマーケティング活動が起こせると思います。少しでも財政的なことも含めた企画なども考えられます。

いずれにしても、まだそういう方面は全くできておりません。

○藤川隆夫委員 わかりました。これはやっていかんといかぬ話ですね。

○荒木章博委員 今、藤川委員の質問にありましたように、やっぱり組織をつくるということは、やっぱり熊本で唯一の世界の大会がまずは開催をされると、オリ・パラの前、またハンドボールの前。前回ハンドボールをつくりましたときに、キャスルの横に、前田当時の事務局長が、県の部長だった商工観光労働部長が退職されて、あそこに事務局長として、各市、県、協会、そして机、椅子並べて対策をとられたと思うんですけども、あれは大会の始まるどのくらい前だったでしょうか、商工観光労働部長。

○小原観光経済交流局長 私が当時勤務しておりましたので、私がお答えします。

多分福祉会館に前あったんですけども、その場所がないということで、どこもあいてないということで、空き地がまだあそこありましたので、あそこに中古のプレハブを建ててやったということで、多分1年ぐらい前じゃなかったかなと記憶しております。

○荒木章博委員 それで、1年前にやっぱりある程度の組織をつくって、そこが手狭だったからあそこにプレハブを建てて移ったんですね。たしか3年ぐらい前から——2年ぐらい前から、1年前から対策をつくってきちんとした組織ができたと思うんですけども、今回の場合は、ハンドボールと違って各国の出場者もかなり多いわけですから、さっきの委員が言われたような対策もやっぱりとるべきだなというふうに思っております。

それと、笠会長が先ほど言われたように、ラグビーは、ちょっとほかの種目と違うわけですね。ワン・フォア・オールとかオール・フォア・ワンとか、みんなでスポーツを楽しむ。サッカーになりますと、敵味方に分

かれて戦って、地方のロアツツでも、負けたら、自分の熊本のチームでも熊本県民がブーイングをします。非常に特殊な競技なんですけれども、ラグビーは、私も、この前、にわか応援団だったですけれども、見させていただいたら、非常にその取り組みというのはすばらしいものがあるなというふうを感じるわけですけれども、まあ、この違いを埋める文化というのに対して——文化ってスポーツ文化ですよ。それをやっぱりこの4年内、3年内、2年内にどうやったものを、協会側がこういうのをやっぱり発信していかないと、県とか市とか私たちはその意図はわからないわけですから。それからそのラグビーの精神はわかるんですけれども、私は剣道やっておりますけれども、剣道の場合はオリンピックには参加しないんですよ。これはもう剣道の理念の中で、オリンピックには参加しない。だから、よその外国の人たちは、この前、56カ国で世界大会やりまして、日本武道館に私もまいりましたけれども、目標は世界大会があるけれども、その世界選手権があるけど、オリンピック種目に、よその国は全部やりたいと言うんですけれども、剣道の理念としては、日本剣道連盟は参加をしないと方針を打ち出しているんですよ。そうした中で、ラグビーの場合は、やっぱりイングランドのラグビーの文化と日本のラグビーの文化というのはかなりかけ離れた分があると思うんですけれども、そういった中で、やっぱり会長が今後その精神普及なんかも含めて、ソフトの面ですけれども、どういうふう考えていかれるのか、ちょっとお尋ね、再度、少し部分的には触れられましたけれども、お願いしたいと思います。普及を含めてですね。

○笠参考人 普及については、熊本招致が決まるちょっと前から、だから2年ほど前から幾つかの民間の団体、勝手連みたいなのところがありまして、すきたい熊本協議会、その1

つはですね、そういう商店街の集まりがある。もう横断幕を、商店街の中に「熊本で開催しよう」という横断幕をね、それをやったり、ラグビーの大物、昔の大物選手の講演会をしたり、それはその勝手連がしたり、我々ラグビー協会でもやっています。そういうふうにもちまたの普及活動は地道にはしています。決まってからは、3月に決まりましたが、私が今、何回ぐらいかな、ロータリークラブとか商工会議所とか各地で講演に出かけています。この人も、あした菊陽町に行きます。そういうふうにも講演活動などはしておりますが、それから、メディア対策としては、ラジオで、2019まで毎月1回、ラグビーの時間をとっています。それから、新聞や各放送局に非常に小まめに私は赴きまして、取材、報道をお願いするようにしております。だから、皆さん御承知と思います。にわかに記事があるいは番組がふえたと思いますが、そういったこともかなり影響していると思います。

あとは、幅広くたくさんの方を上げるためには、女性ファンが必要なんです。だから、子供のちびっこラグビーとかあります。そのお母様方を何とか組織化できないか、母親の力が大きいですからね。そういうことも考えております。

いずれにしても、企画倒れにならないように、そろそろ手を打たなきゃならないんです。勝手に思っています。どっかで飲み屋でそれをアピールしたりとかあるんですが、場がないんです、今。いろんな行政の人たちの担当の人たちも、それぞれの部署があったにせよ、ぜひ共通の場、実働部隊の場を設けてほしいと思います。

○荒木章博委員 あと2点、ちょっとお尋ねをしたいと思ってます。

先ほど、岡村副会長さんから、カテゴリーのいい試合をとってほしいということで3万

2,000ということ、今8番目ですけども、ただ、福島という地震対策については、そうなってくると、10番目ぐらいの規模になってくる。福岡とタイアップしていくと、そういうふうなことも聞きましたし、ワールドカップも手を挙げましたけれども、3万2,000でしたから大分にとられてしまったと、サッカーの場合は。そういったところもあるんですけども、もちろん今から——この前、溝口委員長がラグビー協会の事務局長とお話をされて、非常に——あける、陸上とかいろんな競技団体と協力してもらわなきゃいけないけれども、長きにわたって会場をあげとくと、いい試合が転がり込んでくるんですよということなんです。

それで、2週間前、森会長の秘書の長谷川さんともちょっと、いきなりだったですけども、10分か15分ぐらい話す機会がありまして、ぜひ熊本にいい試合をとということで、私たちは私たちのラインで営業、彼が一番片腕ですからお願いをしたりして、営業努力もしていかにやいかぬなというふうに思ってるんですけども、そして、やっぱり強さというのは、もちろん今から強化をしていく。その中で、やっぱりオリンピックのとき、日本で開催されたときに熊本出身者が40何名ぐらい出たんですかね、あのときは熊本出身者が。だから、あの東京オリンピックは熊本県もかなり盛り上がったんですよ、出場者が出たということ。ラグビーも、できれば、4年後に向けた強化選手とか今の高校生とか——野口先生は九州学院ですから、後輩ですから、ですから、そういったところの強化策なんかという話も少しちょっと聞かせていただきたいなと思ってるんですよ。

○笠参考人 オリンピックの話が出ましたけれども、何とオリンピックでもラグビーは男女とも種目として採用されました。ですから、もうこんなに恵まれた種目はないんで

す。オリンピックの種目が女性も含めてあって、7人制ですけど、あって、競技人口は特に女性は少ししかないのに、もうオリンピック採用されているんですよ。だから、頑張り次第では、いつも手近にあるいは目標が近いところに可能性があるんです。そういうことも含めたら、さっき小さいお子さんのラグビーの強化というのを言いましたが、女子ラグビーも非常に目標に到達する近道ではあると思います、この強化はですね、もう既にこのリオオリンピックから始まるんですから。御承知のとおり、男女とも日本はオリンピック出場決まりました。ですから、にわかにはオリンピックとワールドカップと含めた形で国際試合という話題が周りにこれから続くと思います。

○溝口幸治委員長 選手強化については何か協会で行っていることがあれば。

○永野参考人 体育協会の予算で小学生から大体高校生ぐらいまでの一貫した教えといいますか、まあ長崎がちょっと進んでまして、長崎のほうが中学、高校という持ち上がりもそのままだと、パスの仕方がこうだよとかそういうやり方も小学生からとるとということで、5～6年前からやってきております。ことしの正月ですけども、中学生が、ブロックがBブロックなんですけれども、熊本県代表として準優勝していると。少しずつ強化が実ってきたかなというふうに思っております。

○荒木章博委員 今のところ、トップリーグもこの前私見学に行きましたけれども、熊本選手が出ましたということで、盛大なる会場で拍手がありました。そういう熊本の選手が将来4年後に、候補までいかぬでも、そのくらいになるだろうという選手がいますかね。

○笠参考人 それはもう帝京の流、キャプテンだった。彼は、流大氏は候補まで行くかな、まだ今から、いわゆる相手レベルの違う相手と今から戦わないかぬわけですが、しかし、話題としては有力な話題に入ってますね。

○荒木章博委員 熊本選手が最後に私活躍するという事は非常に私たちはその中で喜びがあるものですから、そここのところ協会あたりはお願いしたいなと思っております。

最後に、ハードの面、ソフトの面、それは今から協議をして組み立てて組織をつくって動かれていくし、県も予算をいろんな面を出すところは出していられるということで、駐車場が狭いとか交通問題とか、そういう問題は今から大がかりにかける、特に、飛行場があるものから、あの混みぐあいというのは非常に飛行場に対する対策というのには頭が痛い、今会長が言われたように、駅があるわけじゃないし、そこを通過してね、今武蔵塚駅からタクシーに乗って横を横断して飛行場に行くという施策を県がモデル地区にやったりしているんですけれども、それで、私は先般観光課にも——実際私もサッカー協会に所属していたときに、サッカー協会は、いろんな何万人大会をやっているんですよ。だから、ラグビー協会と一緒にあって、やっぱり力を、各協会が力を合わせていくと、そのノウハウが、ラグビー協会の場合は、実際運営してもなかなか初めての大会ですから、そうすると、サッカーのほうは、Jリーグとかいろんなことで過去にもエースフリーゲルスとかそういうものも含めたやつを実際運営しているものだから、力を合わせて。

そして、私は最後に申し上げたいのは、前回の大会では、大変な僕は御苦労があったと。前回のトップリーグの大会は、熊本で開催されたトップリーグは大変な御努力が僕はあったと思うんですよ。ぎりぎりだったと言

われるんですけど、やっぱりこの会議数とか取り組みとか運営とか私はすばらしいもんだったなど。サッカーは、僕はJリーグで行くもんですから、僕はこれは高く評価していいんじゃないかなというふうに思うんですよ。

それで、今後、今これは第1回目ですけど、今から組み立てて組織をつくり、そして各予算をつくり、組み立てて、要望とか意見を聞きながらやるわけですからね。ただ、私は、最後に、この前やられたトップリーグのときに、あれだけの観客をうまく誘導された、それはもちろん県、市の協力もあったからのことだと思うんですけども、今後、そういう意味で、もう会長以下役員さんほっとされたと、事故がなかったからということで思いますので、高く私はこの件については評価をしたいと思って、終わります。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○高野洋介委員 実働部隊の組織化についてちょっとお尋ねしたいんですけども、今協会の常勤スタッフは何名で、実働組織ができたときにそこに何人ぐらい派遣できますか。

○野口参考人 常勤スタッフとしてはゼロです。それで、我々が仕事抱えながら協会のほうの仕事をやっているというのが現状です。

○高野洋介委員 やっぱりそこに私今までちょっと組織として弱かった面と、こういう大きな国際大会が誘致できたときに、やれ、どうすればいいんだろうというような不安とかそういうのがあると思うんですよ。恐らく県は、多分4月以降、人事異動等々で、ラグビーワールドカップと女子ハンドボールに対してのスタッフというのをきちんと整備すると思うんですよ。恐らく市のほうもされると思うので、そこら辺まで含めて、ラグビー協会として、ぜひそういった環境を整えてもらっ

たほうが、先ほど笠会長がおっしゃったようなスムーズな体制ができるんだらうというふうに思っております。もちろん県のほうも、ほかにもいろんな関連した形で、職員を臨時的に派遣するとか、ポイントポイントで派遣するとか、そういう組織はできると思うので、そこはまずしっかりやってもらいたいので、私もこの間トップリーグ拝見させていただきました。大変盛り上がりがあって私も楽しかったんですが、ふと帰り際思ったんですけども、あれが、ヤマハが来なかったときに、ヤマハ発動機の試合が組めなかったときには、どういうふうな動員数だったのかなというのをふと感じたんですね。ラグビーというのは、私もずっと兄貴が花園に行ってますから、ずっと見て楽しいんですけども、なかなかわかりづらいし、これからどう広報するかという、先ほどおっしゃいましたが、今からシーズンオフですよ、冬まで。その間が一番選手たちは苦勞されているんですが、やっぱり協会としても、このシーズンオフにどうやってつなぐかですよ。その対策はとられていますか。

○野口参考人 今はシーズンオフというのがなくて、夏も大会やっているような状況なんですよ。それで、ラグビーの競技をどうやって広げていくかということ、まず一番ネックになるのはルールの問題だと思うんですよ。ラグビーはルールがわかりにくいと。これにつきましては、協会のほうでも、先日も行ったんですが、試合前に告知を行って、ラグビーのルール解説教室を開きますということで、今のところ2回ぐらいそれを開いているんですが、これをずっと恒常化して行って、大会のたびにルールを、また、この間のトップリーグみたいな大きな大会のときも、まだ実現化はしてないんですが、「ルール解説できます」というようなジャンパーを着た人をスタンドの中に配置して、わからない人

はその人の近くに寄ってくださいと、解説してくれますよというような努力はしなきゃいけないと。一番のネックはやっぱりルールが難しいところだと思いますので、それについては積極的に取り組んでいく必要があると考えております。

○高野洋介委員 ルールが難しいですよ。ルールがわかったからファンがふえるかと思ったら、そうでもない部分もあるし、ああいう五郎丸さんみたいなスターが生まれて、そこで入って、ルールはわからぬけど、見てて楽しいと言われる方もいらっしゃると思うんですよ。

手前みその話になりますが、12月に一般質問をさせてもらって、ラグビーの質問しているんですよ。というのが、ことし中から、小中学校にはラグビーボールとハンドボールを支給して、学校で授業をするということを教育長がおっしゃったんですね。多分そういう情報が行ってないんだと思いますが、そういう情報も、県議会でも市議会でも多分そういう話あってますよね。ですから、そういう情報をぜひ協会としてもしっかり把握をして、次にどうつなげるかというのをぜひ取り組んでもらいたいと思っています。

私、シーズンオフと言うたのが、それは高校とか中学校とかはあっていると思いますが、恐らくトップリーグは冬ですよ。だから、今から日本の選手は外国に行ったりとかされますよね。だから、そこら辺のことを言ったんですよ。ですから、やっぱり国民とか県民の方々は、ああいうプロとかトップリーグとかという試合しかあんまり見ないですよ。高校とか大学のテレビ放送はほとんど今やってないですよ。だから、身近にもう少し感じられるように、私もラグビースクールの顧問やっているんですね。そことかいろいろ広げながら、子供たちと親と一緒にラグビーが楽しめられるような環境をぜひ努力

してつくってもらいたいなというふうに思っています。

この間のトップリーグが終わった後のアフターファンクションに行かせてもらって、日本代表の選手とかプレーした人の話を伺いましたので、また、終わってからでも話をさせてもらいますので、ぜひよろしく願いいたします。

以上です。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○重村栄委員 先ほど来いろいろお話を聞かせていただいています。個人的なことで行くと、私も学生時代ラグビーやりましたので、非常に関心度が高いんですけども、ルールの問題、先ほどからお話しされているとおり、非常にわかりづらいから普及しないという面もあるんですけども、ただ、それだけじゃないというふうに感じています。やっぱり身近じゃなかったと、今までが。余りにも離れていたというのがあるのかなという感じがするんですけども、今回のトップリーグの試合もそうですし、ワールドカップもそうなんですけれども、ラグビーそのものの文化が日本には根づいてないと。歴史は長いですよ、ラグビーの歴史。すごく長くて、釜石が全盛をした時代もあるし、神戸製鋼が7連覇だったかな、なった時代もあるしですね、非常にそういう歴史もあるし、一時は、明治がすごく重量フォワードで頑張った時代もありましたし、だから、そういう意味で、そのときそのときには話題性はあったんですけども、その継続性がなかなか続いてないというのがこのラグビーの日本における文化かなという感じを持ってまして、そういうことを考えると、やっぱり先ほどから出ているタグラグビーを含めて、やっぱりもうちょっと底辺の拡散をしておかないと、急にやろうとしてもなかなかできるもんじゃないんじゃないかなと思います。

ないかなと思います。

私は荒尾に住んでいるものですから、地元荒尾高校があって、徳井監督、一生懸命子供たちにタグラグビーとか教えてくれてますけれども、なかなかふえないんですよね、数に限りがあつて。やっぱりそういった意味では、よっぽど今から頑張らぬと、その底辺の拡大というのは難しいかなという気がしますし、それと、もう1つ気になるのが、この年にハンドボールも熊本でありますよね。時期的にもそんなに離れてないと。このときに、きょうはこのラグビー協会の皆さん方とお話ししているんですけども、じゃあ、ハンドボール協会との関係はどうするのかと。どっちにもボランティアも要る、どっちにもいろんなスタッフも要る、お金も当然要る、それをどうやってすみ分けをしながら、どうやってうまく利用するか。ここも、ラグビー協会だけじゃなくてハンドボール協会等も含めて、当然それじゃ県、市入った中でどうするかというお話もしといていただかないと、こっちはこっちの話こっちはこっちの話、これじゃやっぱりまずいんじゃないかな、そんな気がしますので、当然ラグビーはラグビーとしての中心的な役割はさせていただく、これは当たり前のことですけども、ハンドボール協会とのかかわり、これも無視できないというふうに思いますので、それがうまくいけば、いろんなスタッフが、ボランティアスタッフ含めて共有できる可能性もあるわけですよ。おもてなしというそんな面だとかそういったことも含めて、メディアに露出の仕方、ラグビーだけじゃなくてハンドボールも含めて、うまく相乗効果が出るような形を考える必要があるんじゃないかなと、そんな感じをちょっと先ほどからのお話を聞きながら感じました。

○笠参考人 その点は、ラグビー協会も、もう理事以上は十分認識しておりまして、具体

的な取り組みでは、共通のパフォーマンスがあるときは、お互いが呼びかけて一緒に行動を今始めてます。例えば、ラグビーはラグビーファミリーパレードというのを目抜き通りでやりますが、去年からハンドボールの人たちも入ってもらってます。ハンドボールとラグビーは、ラグビーが9、10、ハンドボールが12、だから、2カ月か1カ月半違うんですが、実際は、ボランティアとか何かの問題もあると思いますが、それもうまく組織化したら、ハンドボールに引き継げるような形もできると思います。完全にかち合っているわけではありません。ですから、それを効率よくうまくそれぞれの協会もそう認識していますので、向こうの催しに私は誘われて行くこともありますし、我々の催しにハンドボールの面々が参加するというのもう始めています。だから、行政のほうもそういう形で機構をつくっているはずですよ。

○濱田大造委員 1点質問なんですけれども、この委員会で昨年東京に上京しまして、たしか日本ラグビー協会の組織委員会ですかね、事務局の方といろいろ意見交換させていただきまして、座席数の話題になりまして、私たち、その意見交換する前までは、何千席ふやさないといい試合がとれないから、何とかスタジアムの座席を仮設にするのか本格的に増設するのか緊急に決めないといけないという感覚で行ったんですが、組織委員会の方は、それはもう全然要求しませんと明確に言われたんですね。3万2,000席でしたかね、今現状。そのキャパでもう選ばれているわけですから、それを4万席にしないといい試合がとれないとかそういうことは全くないですよと明確にそのときおっしゃいまして、その辺のことを私たちも認識を新たにして熊本に帰ってきたつもりなんですけど、先ほどの話とちょっとその辺がどうなのかなと思ひまして…。

○岡村参考人 今3万2,000ですよ、うちのスタジアム。3万2,000のままですとAランクの試合がとれるとは認識して私たちはおりませんでした。初めて聞きました。多少なりとも、4万まではあれだけど、まあ、3万6,000、3万8,000ぐらいまでの座席を用意せんといかぬのかなという認識でございました。

組織委員会とも結構情報の交換的なことはやっているんですけども、その答えは私は聞いておりません。だから、やっぱりちょっとふらふらしているんですよ。組織委員会の……。

○荒木章博委員 俺が質問したんだけど、3万2,000のはね。ただ、そのときは——だから僕は安心して帰ったんですよ。そしたら、東京へ行っているいろいろ聞いたら、今言われたようにぶれてるんですよ。だから、結論は出てないですよ。

○濱田大造委員 協会、組織委員会としては、何千席ということはありませんか。それで、4万にしたからいい試合が来るということもありませんと明確におっしゃってたんですね。ぜひその辺は、熊本のラグビー協会さんも確認をお願いします。

○岡村参考人 はい、それは確認します。

○笠参考人 結構これは大きな問題なもんですから、残り4万にこだわるのだけはやめます、我々も。ただ、一応カテゴリーというのがあって、それだけのスケールが要ると、一応単価も高くなりますからね、本番になれば。だから、その収入の見込みが必要なんですよ。だから、4万に、数字にはこだわってません、既に。ただ、そのランキングに入るためには、今のままでいいのかと言うたら、まあ、今我々言っているとおり、ある

程度ももっとふやさないとだめじゃないかと、カテゴリーに入れないんじゃないかという認識はあります。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○河津修司委員 さっきから県、市と一緒にあって、協会も一緒になっての実働部隊というか、その事務局みたいなものという、その部分は、ラグビーだけの実働部隊というか、事務局なんですか。そのハンドボールも一緒にいいことになるんですかね。大体これは予算もあるかと思うから、執行部としてはそこはどういうふうに考えているのか。

○笠参考人 ハンドボールの場合は事務局があるんですよね、もう。実際我々ラグビー協会は、事務局は名ばかりで自分の家の住所を書いたりしているんですよ。

○河津修司委員 だから、同じ事務局をつくるとしたら、県とか市からも出向していくことになるかと思うんですが……。

○荒木章博委員 関連して。河津先生、こちらがつくるわけじゃないもんだから、だから、それは県、市と各協会が相談して将来しないと、ラグビー協会にそれを、ハンドボールはどうなるのかと聞いても答えは……。

○河津修司委員 そういうわけじゃなくて、ラグビー協会としての考えは、ハンドボールと一緒にでもいいと考えているのか、執行部のほうも考えがあると思うんですよ。

○溝口幸治委員長 ちょっとじゃあ整理します。

満原課長、2019年に向けて組織をどういうふうにやっていこうと考えているのか、今、荒木委員がおっしゃったように、ラグビー協

会さんがやるわけじゃないですよ。県と市と連携して、そこにラグビー協会さんも入っていただくと。ラグビー協会さんたちは、きょうもお話出たように、みんな仕事を持つとなはるわけですよ。専従したわけじゃないですよ。ほかにやるべきことがあって、みんな仕事持つとなはるわけですから、やっぱり県と市で連携して組織をつくっていくのが一番正しい方法だと思いますし、その辺のスケジュール感をちょっと、今の時点で、わかっている時点で。

○満原観光課長 現時点で考えておりますのは、やはり2019年のハンドボールとラグビー、それから翌年のオリンピック・パラリンピックのキャンプ地等々国際スポーツビッグイヤーを抱えて、熊本県としては、これを包括的にやるところを今組織化しようということで今考えております。

○溝口幸治委員長 組織委員会から正式に、2019の前に、地元で組織委員会をつくってくださいという指示が来るという話だったですよ。それはいつごろ来るのかということ、それから今の実働部隊、今ないわけですね。要は、ラグビー協会の人たちが情報流そうと思ったら、市にも行かない、県に行けば観光課にも行かないかぬ、体育保健課にも行かないというのが現実として今あっているので、1つのところで情報共有をしたい、1つのところで交流を図っていききたいというのがきょうの御要望なので、そういうふうなイメージをもう執行部も恐らく持たれていると思うので、その辺のスケジュール感をちょっとお話しいただければ。

○満原観光課長 来年度の話になってしまいますけれども、今動いていますのは、来年度、ハンドボールとそれからラグビー全て含めたところで考えていかなければならないん

ですけれども、やはりハンドボールとラグビーとおのおの活動的なものがありますので、そここのところを含めたところでまず組織つくって、大きな委員会といいますか、というものを来年度中途につくる、ラグビーの各都市、開催都市の組織委員会につきましては今中央と検討しておりますので、その辺が少しまだ明確にはなっていないというところですが、とにかく県ラグビーフットボール協会、それから県のハンドボール協会等々と連携できる組織立てをつくっていきたいと考えています。

○溝口幸治委員長 4月以降の話なので、なかなかその辺言いにくかでしょうけれども、予算があるので言いにくいし、組織が変わることなので言いにくいんでしょうけれども、4月以降は、今の体制ではなくて、もっと充実した体制になるということでもまず1つ確認いいですね。

それから、大きな委員会をつくるというのは、何とか協会会長とか何とか団体会長とかそういう人たちが、知事とか入ってやるというのが大きな団体でしょうけれども、きょうの話は実働部隊、いわゆる汗かく事務局レベルのやつでいいので早く立ち上げてくれということなので、それも含めてどう考えているのかというのをちょっと今の時点で。

○満原観光課長 済みません、説明が非常に不足しておりました。そういった委員会を立ち上げてやるわけです。その実行部隊としての事務局、これにつきましては新年度立ち上げることで考えております。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○橋口海平委員 今、こんなテストマッチとか国際大会の試合を誘致とか4年後に向けてしているかと思うんですが、先ほど施設の改

修の問題とかあったんですが、今現状で、そういう国際大会を誘致して、今の何も改修しないままでも来るものなんですか、それとも優先順位とか人工芝を張らないと国際試合をやれないとか、そういう問題はどうなっているのかと。

○野口参考人 国際試合につきましては、ワールドカップを別にしまして、アジアチャンピオンシップというのが年間2試合、そしてパシフィックネーションシリーズというのが年間4試合、ワールドカップと関係なく大体6試合日本の国内でジャパン戦と、俗に言うジャパン戦と呼ばれるようなのがやられています。これを我々とすれば早く経験をして、運営のノウハウを、問題点等を洗い直して2019年に結びつけたいということで思っているところです。

ですから、その2つの試合が来年度でもとれればとりたいたいというのは考えております。その際問題になるのが、ハードの面として言いますと、1つは、ゴールポストの問題、今多分10メートルそこそこしかないと思います。あの今国際試合になると、物すごくキックが飛びますので、高いゴールポストが必要だし、安全面からすると、ピッチの芝生の周りに5メートルの人工芝を敷く必要があります。これは計算していくと大体100枚ぐらい必要になっています。今、KKWINGにあるのはゴムのシートでありますけれども、これが人工芝の毛の長いやつということで言われると、今のところ、それは枚数が足りていないというのが現状ですね。

あとは、設備的な問題とすれば、シャワー室の問題です。日本人仕様でつくってありますので、外国人の体の大きい選手が来た場合は、ちょっと中に入って体を洗うことができないような状況ですから、それは早く改修していただきたいというのがあります。あとは、個人ロッカーが全くありません、部屋だ

けしかありませんので、選手の更衣室、それに個人用のロッカーをつけていただくということはもう早急に対応していただきたいなと思っています。あと、ラグビーだけじゃありませんが、ほかの競技、陸上でもそうなんですけど、今もうドーピングが非常に厳しくなってますので、ドーピング室というのがあそこにはないんですね。ですから、トイレの設備を整えたドーピング室というのが今後必要になってくると思いますので、その辺の施設の改修は至急行っていただければ、国際試合がある程度とれるんじゃないかというようなところで考えております。

以上です。

○溝口幸治委員長 ありがとうございます。

○笠参考人 つまりは、2019にどうせこれは必要事項だとしてしなきゃならないんですよ、今のシャワーとかドーピングのルームとか含めて。ということは、それを前もってできれば国際試合もまた呼べるということですね。ですから、呼ぶことでまたいろんな体験効果があらわれるんじゃないかという考え方です。

○溝口幸治委員長 じゃあ、今の早急に施設を改修しなければならないという問題意識というのは執行部もお持ちだと思いますけれども、今の時点での何か執行部として答えられる部分がありますか。

○満原観光課長 ラグビーワールドカップの2019ジャパンの組織委員会等とこれまで数々打ち合わせをやっております。今話にありましたシャワー室、それからドーピングコントロール室等々、これはもう必要だということで私ども考えておりますので、その辺につきましても、予算の関係も含めまして今後やっていくという方向で今検討しております。

○溝口幸治委員長 わかりました。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 じゃあ、最後、部長、きょうの意見交換も含めて何か執行部としての対応。

部長、お願いします。

○高口商工観光労働部長 きょうはラグビー協会のほうから大きいお話から小さいお話までたくさんいただきました。冒頭、委員長がおっしゃいましたように、時間があるようではないというのも我々も十分認識しております。ちょっと時期が今2月の当初予算の議案を出す前でございますので、余り申し上げられることはございませんが、今後、2月の議会での当初予算にはなるべく緊急的なものは考えていきたいと思っておりますし、6月の本予算に向けては、そこも含めてしっかりと予算も計上しながら御審議いただきたいと思っています。体制についても、先ほど満原課長申しましたように、今両協会、ラグビー協会もハンドボール協会も同じようなお悩みというか、問題意識を持っていらっしゃるのはいずれも承知しておりますので、そこを十分受けとめながら、熊本市としっかり連携をしながらやっていきたいというふうに思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

以上です。

○溝口幸治委員長 ありがとうございます。

なければ、これで意見交換を終了いたします。

まず、きょうお見えいただいたラグビートボール協会の方々に御退席いただきたいと思いますが、お礼の御挨拶をさせていただきます。

本日は、まことにありがとうございます。きょうお話しいただいたことを箇条書き程度でも結構ですから、またまとめていただいて、執行部のほうを通じて我々にも見られるような形にしていだければというふうに思います。

きょうは第1回目ですが、また年度が変わったり、あるいはいろいろなことがあったり国際大会が入るようなことがあったりすると、こういう形でこの委員会が窓口として意見交換をできればというふうに考えております。

もうおわかりのとおり、みんな成功に向けて何をすべきかという前向きな意見でありましたので、それぞれの委員が応援団だという気持ちでぜひ頑張っていたきたいと思えます。

なお、皆さん方、本当に仕事がそれぞれありながら、例えば審判されている方たちもそうですけれども、協会の方たちみんな仕事があつての応援でございますので、2019年まで、それぞれの方々の職場での御理解だとか、職場から協会の仕事がしやすくするためにどうすればいいかということも我々しっかり応援をしていくつもりでございますので、何かありましたら議会のほうにも御意見、御要望をいただければというふうに思います。

本日は、まことにありがとうございます。

まず、4名の皆さん方御退席いただいて、その他を受けたいと思えます。

（参考人退席）

○溝口幸治委員長 それでは、その他に入ります。

そのほか、先生方から何かありませんか。

○荒木章博委員 HROプログラム、昨日、ハロープログラムということで、Hはハンド、Rはラグビー、そしてOはオリ・パラの実行委員会が、第1回の会議が開催された

わけです。これは、いつこの団体に会議をするという、準備委員会をすると、第1回の会議をいつ発送されたのか、そして議会には、議会のこの委員会にはどういう説明をされたのか、そこをお尋ねします。

○満原観光課長 昨日、ハロープログラムと今委員がおっしゃいましたいわゆるレガシーという言葉で私たちが言っていたものを熊本県版ではハロープログラムと。今お話がありましたように、ハンドボール、ラグビー、オリンピックの頭文字をとってハロープログラムということで、熊本県で何を残すか、何をやっていこうかということを決定するというところで考えておまして、この策定委員会、第1回を昨日行ったんですけども、それについては非常に喫緊で緊急にやってしまったんですから、発送は約1週間ぐらい前にしかやっております。それで、非常に各方面に御迷惑をかけているというのが実情でございます。

第1回と申しましたけれども、この策定の方向をどうやるかということで準備委員会的なところで第1回をやっておまして、これにつきましては皆様方には御説明はいたしておりません。

以上でございます。

○荒木章博委員 まあ、1週間前に御案内を差し上げた。これを見ますと、各団体のトップですよね、全てが、19名。そういった中で、これは、要するに、レガシーというのはオリ・パラの終わった後の対策のこれは話ですよ、大まかに言えばですね。そうでしょう、内容は。

○満原観光課長 今回、レガシーと申しますのは、確かに、終わった後もあるんですが、これをきっかけに、2019、2020の国際スポーツビッグイヤーをきっかけに、大会前、それ

から大会中、大会後も含めて、熊本県が活性化する方向で活動できるものをプログラムとしてまとめようというところで今考えております。

○荒木章博委員 いや、さっきも言いましたように、もちろん、ハンドボール、ラグビー協会も入ってますけれども、各種の熊本県のトップの人たちが来て会議やって、これはまだ非公開にしてくれと、次回に持っていくからということ、準備委員会だからそういうふうに言われたかもしれぬけれども、1週間前に、これをやる前に委員長には報告はあったんですか。

○溝口幸治委員長 1週間前にはなかったですね。

○荒木章博委員 いつだったですかね。

○溝口幸治委員長 いや……。

○荒木章博委員 きょうでしょう。私がきょう言うからということだから委員長に報告があったんですよ。やっぱり議会という1つの組織、これは委員長にあれば別に私はもう言う必要ありません、正直言うて。こういうのをやるのに大体商工観光労働部はこういうところがありますよ、最近。もっと議会に相談をして、やるからということだけ言えばいいじゃないですか、前日にでも。だから、委員長には、私が言うからうろたえて、きょう説明に行ったんでしょう。何時に行ったんですか。

○満原観光課長 まだ御説明いたしてありません。

○荒木章博委員 してない。なら、委員長、アイコンタクトで説明があったように……。

やっぱり委員長立派ですね。ですから、やっぱりきちんとね、こういうHROというて、ハロープログラム、これは、ハンド、ラグビー、オリ・パラですよ、これ。だから、やっぱりそういうのはきちんとある程度ね、こんなのやるからぐらいファックスとか、それぐらいやってくださいよ。いかがですか、部長。

○高口商工観光労働部長 今の荒木委員の御指摘、まことに申しわけございません。私の指導不足もあるかもしれません。今後そういうことがないようにきちんとやらせていただきたいと思います。申しわけございません。

○荒木章博委員 なら、了解です。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。
なければ、これで委員会を終了いたします。

お疲れさまでした。

午後2時15分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定により
ここに署名する

国際スポーツ大会推進特別委員会委員長